

人物特集インタビュー
NHKドラマ番組部 チーフディレクター 田中正様 インタビュー



今回は、NHKドラマ番組部チーフディレクター田中正様です。というより、連続テレビ小説「なつぞら」の演出をされていた田中正様に登場願いました。インタビューしたときは撮影は終了していましたが、まだ編集等の最終段階で、大変お忙しい中に対応していただきました。早速、お届けします。

質問 お生まれと子供時代のことをお聞かせください。
田中 八代市で生まれ、育ちました。正確にいうと生まれてすぐに父親の仕事の関係で福山に引っ越し、2歳の時に八代に戻りました。福山の記憶はありません。八代駅とお城の中間位の所に家があったので、球磨川と八代城が遊び場でした。その傍ら、6歳から高校卒業まで八代の土谷道場に通い、柔道をやっていました。土谷道場は八代の柔道場では有名で、元柔道連盟会長で講道館館長の上村春樹氏は道場の先輩にあたります。山下泰裕氏(現JOC会長、柔道連盟会長)が来

訪され、一緒にけいこをしたこともあり。金鷲旗大会(高校柔道の全国大会)にも出場しました。

質問 大学に行っても柔道を続けられたのですか。

田中 実は大学に入る前、2年浪人しました。それもあって、大学では柔道から離れました。高校の頃のことを知っている人もいて、入学直後は強く勧誘もされましたが、何とか逃れました。(笑)

質問 大学時代の思い出はありますか？

田中 高校の頃から小説家に憧れました。大学は熊本大学の法学部に進みました。

質問 文学部ではなく、法学部に進まれたのは？

田中 受験前に法学部はゼミのレポート提出だけで、卒論がないと聞いたので法学部になりました。それだけの理由です。(笑) 大学時代はとにかく映画をよく見ていました。無料の試写会に行ったり、当時始まったばかりのBS放送の映画も時間があると見ていました。

質問 NHKに入社されていきさつをお願いします。

田中 小説家になりたいということもあり、第1志望は出版社でした。しかし、採用枠が少なく、苦戦しました。そんな時にNHKの「シルクロード」の番組ディレクターの話を受けて番組制作に興味を持ち、NHKも受けました。何度目の面接の日、海水浴の約束をしていて、どちらに行こうかと迷ったことがありました。NHKの方から「面接を受けた方がいいよ」と言われ、海水浴を断念しました。それで合格して、今日があります。入社して福岡局に配属になったら、その方がいらっしやっただので、御礼を言いました。(笑)

質問 結婚のいきさつなど聞かせてもらえますか？

田中 大学時代一緒でしたが、自分が福岡勤務になり、妻が福岡の岩田屋に就職したので、改めて交際が始まりました。結婚したのは20代の終わりです。娘が2人います。

質問 ドラマ制作担当になったいきさつなど、教えてください。

田中 初任地は福岡局でした。半年くらいたった頃からニュースの企画ものなどの短いものから始まり、音楽コンクールやドキュメンタリーなどの制作を担当しました。3年目に初めてドラマを制作しました。この時にドラマ作りが目覚めました。4年目からは東京勤務になりました。それから途中大阪に5年行きました。東京と大阪ですとドラマ制作を担当している、ということになります。

質問 ドラマ制作について、少し説明してもらえますか？

田中 プロデューサー(企画を作って、人・物・金を運用する責任者)とディレクター(制作現場の責任者)と作家が一緒になって作品をまとめていきます。出演者なども、みんな面接をして決めていきます。

質問 今回の「なつぞら」制作で、印象的なことがあったら、聞かせてください。
田中 ドラマの中に柴田牧場というのが



出てきますが、その場所を決めるためにいろいろ探していた時に、ここがいいと気に入って思わず走り出した。雪に滑って骨折してしまいました。全治3か月。しばらく松葉づえをつきながらの仕事でした。(笑)

質問 実際、大河ドラマ「真田丸」の時も骨折しましたが番組は当たり、今回も行けると思いました。

質問 これからどんなドラマを作ろうと思っただけですか？

田中 40歳から50歳の間に、4本の朝ドラと2本の大河ドラマを制作しました。50代は、メッセージ性のある単発ドラマも作っていきたいです。

質問 熊本県人の県民性について、聞かせてください。

田中 今も両親健在で八代にいます。熊本地震後に心配で何度か帰りました。その時につくづく実感したのが、熊本の人には明るく強いということです。熊本は大丈夫だと思えます。

現在、51歳だそう。まだまだこれからいろんなドラマを制作されると思います。楽しみにしたいと思います。ありがとうございました。文責・守田明法